

みうらトーク&トーク 平成 30 年度第 2 回

日 時

平成 30 年 10 月 15 日(月)

19 時～20 時

場 所

南下浦市民センター 研修室

参加者

みんなの文化祭@引橋実行委員会

テーマ

引橋周辺を文化発信基地にしてい
くことについて

三浦市長あいさつ

実行委員長あいさつ



<意見交換・概要>

市長

実行委員会の皆さんには、市内で今までまちカルの際など、普段から市の事業で色々とお世話になっている方や、引橋地区の区長さんに入っていただいています。引橋地区を文化の中心にしていこうということで、今年初めて企画をしていただいています。皆さんのお知恵をいただいて、これからあの地区はどんどん変わっていくと思います。市民交流拠点として機能していこうということで、地元にも色々ご協力をいただいております。その皮切りとして、今回は社協さんのはつつフェスタや、毎年3月にやっている市民活動デイという、ボランティア活動をお披露目する機会があり、皆さんの取り組みと一緒にできないかということもあり、実行委員会を作っていただきました。3月開催に向けて頑張ろうと。いくら外部の補助金もいただいているものですから、きちんとしたものができると準備をしていただいております。是非多くの皆さんにご参加いただいたり、文化交流の足がかりのようなものをつくっていただきたいと思います。今日は打合せをしているということでしたので、その延長でご意見をいただければと思います。

実行委員長

お忙しいところをありがとうございます。まず今回はアート系の皆さんが集まっていますので、その方たちには普段の活動を。市長がご存知の分もあるし、アピールしなければいけない部分もあると思います。そういうアピールもしていただくことと、行政の方として、少しこういうイベントに対して、普段の活動に対してもうちちょっとサポートがほしいなというようなところがあったら言っていただく等、忌

憚らないご意見をお聞かせいただければと思います。

市長 実行委員会は今日何回目ですか。

市長 大体こういったフレームみたいなものは、市の方からご提案をさせて頂いているんですか。

市民 そうですね。勝手にやってはいけないと思っているので。

市長 ぜひ自由にやってもらってもらいたいと思っています。

今回は引橋地区をいくつかの会場に分けてイベントのような形をとりたいという意向は聞いていますが、日ごろ活動をされたりするときに、三浦市としてももう少しこうしてほしいとか、市民まつりにもご参加いただいたりもしておりますが、ご意見をいただければと思います。

市民 意見ではないのですが、私たちは音楽チームです。大体イベントというと三浦市の三崎の下町の方でやるが多かったので、なんとか三浦海岸の方でできないかと話をいつもしていました。それで今回ちょうど中間点ということで、引橋でこういった感じで文化祭ができるということですのでごく私達は喜んでおります。今度はここを拠点として、我々で何かいろんなことができたらし、ありがたい機会だと思っております。

市民 いつも市民まつりとかだと音響トラブルなどがあるのですが、外でやるし短い時間でやるので、どうしても準備ができないところもあるのですが、それが解消できるような感じがします。今回は機材を購入したりする予定もあるみたいなので、その辺も含めて良い条件で楽しめるイベントができればと思っています。

市長 区の方でも参加できるような文化イベントということで、区民の皆さんにはお近くですし、参加いただけるようにしていただきたいですね。

市民 チラシを作って配ったりはできます。私もギターを持っていて歌ったりしているんです。私は横須賀に60年暮らしていましたが、昨今横須賀では結構音楽に力が入ってまして、同じ日に芸術劇場とどぶ板通りの入り口と、Yデッキの下で同時にイベントをやるんですよ。普段はいわゆる路上ライブのアマチュアみたいな人とプロがやっていて、それなりのレベルの演奏を聴けるといいねって思うんです。例えば、うらり周辺ばかりじゃなく、うらりと下町商店街とやっていくとか、あるいは、うらりと引橋と三浦海岸みたいに3カ所でやるとか。そこら辺に足が止まれば、なんか買ったたり、飲んだり、食べたりするんじゃないかな。経済効果も期待できる。そういうやり方が可能かなと思います。

後は機材の問題が解決しないと、イベントは簡単にはできないと思うので、さあどうするかと。

市長 機材というのは、例えば皆さんは楽器などは持っていると思うので、音響ということですか。

市民 そうです。あとは、それなりのいじれる方がいないと。

市民 横須賀のイベントはそこがクリアされているんですよ。今年は良かったよ。

市民 今後はアマチュアだけでなく、プロも呼びたいと思っています。三浦市の色々な方に聞いてもらいたいと構想をしていますけど。三浦市にもいますので。

僕の弟もプロでパーカッションをやっていて、一流どころが結構いるんですね。一流どころをお友達の感覚で呼べる。だからボランティアでギャラはお支払できないかもしれないけれど、そんな形でお話をもっていければとも思っています。

市長 音楽イベントの配置とかはもう決めてますか。

市民 音楽イベントは社協さんの安心館の駐車場で行います。

市長 ちょっと狭いのかな。

市民 狭いですが、中よりは広いです。屋根があって中が広いといったら消防署の跡地しかないでしょ。引橋のコンクリート打ちっぱなしの。

市長 機材は何を揃えるって話なのですか。

職員」 いわゆるアンプ系のセットで、その他も徐々に揃えていけたらなと思っています。

市長 今横須賀は市長がバンドをやっていたりしてますので、機材もキチンと持ってらっしゃいまして、音楽に力を入れて進めているんですね。私はそういったタイプではないのだけれど、皆さんで盛り上がってくださるのは、市としてもウェルカムですし、環境を整えばどんどんやっていきたいと思っています。

今回その「みんなの文化祭@引橋」っていうのは、音楽はもちろん、いろんな文化の活動を、引橋から発信して、市内に広げようという目的があるんですけどね。区にはもちろんご協力をいただいて、それぞれ専門の実行委員会の皆さんのお力をいただいて創り上げていこうということで、準備を進めていただいています。

やっぱり文化の拠点みたいなものが必要だって言われているんですよ。図書館なん

かも、分散しているのを引橋に集めて、総合図書館を作ろうという構想を持っています。絵画とか、文化連盟の方々が使えるような、ちょっとしたギャラリーですとか。今回市民交流センターで全部その機能を兼ねるっていうのはなかなか難しいですね。そういったものはグラウンド跡地の方にうまくもっていけるような構想はあるのですが、実際にはその構想を実現するためにはまだいくつかハードルもあるので簡単にはできないなと思ってます。市民交流センターというのは、ベイシアさんのオープンのちょっと後くらいに準備ができます。2階の駐車場のスペースの所で、ショッピングゾーンとは違うフロアにできますので、結構使えると思いますよ。

市民 定期的なイベントに使えたりもできるのですか。

市長 できます。

市民 今まではライブイベントがあっても、「〇〇さんが出演します」とバンドとかもできてたんですが、誰かがバックバンドをやって、市民にも歌いたい人っていると思うんですよ。そういう人に一緒に歌いませんかという、参加型のイベントも考えているんですよ。

市長 一応イベントスペースみたいなものもあります。駐車場を利用させていただくという話で今調整を進めているんです。ですから、ベイシアも催し物をやるときには協力してくれることになっています。市民交流スペース自体も大きなホールみたいなものがあるわけではなく、貸し事務室やミーティングルームがあるので。

市民 大きな広い講堂みたいなものができるのかなって勝手にイメージしていたんですけど。

市長 そういったスペースではないですね。市民センターのような小部屋がいくつかあるというのが簡単なイメージです。

市民 どっちかといえば会議とかに利用するものですか？

市長 そうですね。ワークショップとか、市民団体の方がちょっと会合に使ったり、ママさんたちが会って話したりとかってイメージですね。

小網代の森インフォメーションセンターっていうのもできます。森の案内とかができるスペースになっています。

市民 常時音楽の機材を置いておくことはできますか。

市長 置くことはできると思います。

市民 今横須賀のボランティア団体さんとコラボしていて、三浦の子育て世代もそうなんですけど、お家でクラフトを作って、サイトで売ってる方が結構いて、ただ出展まではしたことがない。横須賀にはそういう出店できるスペースがショッピングモールの中などにあって、そこを借りて、出店しながらお母さん方が交流するシステムがあります。そういうのも三浦でできるといいなと私は思っているのですが。

市長 スペースとしては用意されています。例えばボランティア活動とか、そういった意味合いで物品を販売することはできると思います。打ち合わせなどに自由に使っただけのようなスペースができます。ただ音楽をやるとなると、全館イベントの際やコンサートをやりたいとき、駐車場を一部使わせていただくなどはできると思います。

これからそういった活用をしていただくとか、市民交流センターのオープンに併せて文化活動を活発化していこうというのが、今回の趣旨だと思います。

社協さんも今まで「はつらつフェスタ」というイベントをやってらっしゃったので、色々とそういった活動と一緒にやっていければいいので、今度一緒にやらせてもらえることになりそうです。市内に文化活動をどう広げていくかというのが大きなテーマになろうかと思います。

三浦市は伝統芸能は強いんですね。歴史を守るという面で。ただ、新しい今風の文化交流のイメージができていないという気はしています。三崎の下町で色々やらせてもらっていますが、単発的になってしまっていますので、さっきおっしゃっていたみたいに、色々な地区でできればいいかなと思っています。

市民 FM局みたいな「三浦FM」をつくりたいなと思っています。

市長 三浦の規模では難しいのかもしれませんが、横須賀のFM局は湘南信金が支えているのですよ。三浦ではFMの話って今までなかったです。スポンサーがつかないんじゃないかな。

FM横浜は一応市とパイプもありますので、何かイベントがあつたりすると取り上げてくれるんです。私も何回か出たことがあります。

今回の「みんなの文化祭」っていうのは、市民の皆さんに、文化活動を広く知らせたいのです。だからこれがきっかけになればいいかなと思っているんです。

市民 海南神社の祭りは、木遣りが先導してるでしょ。ああいうの他市ではもうほとんど残っていないと思うんですよ。だからあれを大事にしつつ、たとえば木遣りとジャズのコラボとか。私けっこう合いそうな気がするんですよ。

木遣りは木遣りで単品でやってるとそれに関心がある人だけになっちゃうけど、ジ

ヤズとコラボしたらどうなのかなって。そういう試みがあってもいいと思うんです。

市長 横須賀の神輿パレードの様な催しを三浦でやりたいというグループがおり、今準備してもらっています。市内で11機くらい集まったから、やろうかと。これから具体的に話し合いをします。やっぱり人が集まる時じゃないとダメじゃないですか。夏場の例大祭とか秋口なんかの港町まつりとかに併せて。ああいうときにできないかというので、今年はちょっと間に合わないですが。

これから陶芸ですとか、アートの展示は会場を分散させるんですか。市民まつりが練習みたいになるのかな。またちょっと違うのかな。

市民 言ってしまうとまったく新しい取り組みなので。

市長 これは1日じゃもったいないよね。

市民 2日間で行います。

市長 はつらつフェスタは1日ですか

市民 はつらつフェスタは規模的に狭くなってしまうので、今回ははつらつカフェと銘打って、2日目の午前中にやろうと考えています。

市長 いずれにしても三浦の中心部が市民交流拠点としてこれから整備されていくので、ぜひこれを皮切りに、文化活動の拠点の様なものができるように、市民の皆さんにお知らせできるような仕組みを作っていただきたいと思っているのです。

やっぱり音楽家としては出番が少ないですか。

市民 そんなことないですよ。市長さんにも歌ってほしいくらい。「リハーサル無し歌合戦」とかそういうタイトルでやりたいと思ってる。飛び込みでできるような。市民活動デイの時も、「いきなりフォークデュオ」ってのをやったことがあるんですけど、歌本1冊持って行って、ページを開いて、この歌うたえる人って、僕が伴奏して歌ってもらった。そんなことを広げていっても面白いんじゃないかな。

市長 そういう機会ですよ。市民活動イベントが市内にもうちょっとあるといいかもしれないですね。今はやっぱり数が限られてますよね。

文化連盟というのはあるんですけどね。活け花だとか書道などの文化連盟があります。それは作品展示が中心なんですよ。音楽活動の皆さんは文化連盟って入っていない方が多いですよ。文化展なんかもあるんですけど、それはプロの様な作品がたくさん並びますが、それは素晴らしいですよ。でもやっぱり、音楽みたいなものは少

ないのかもしれませんが。

取り組みは教育委員会がやっているんですよ。文化活動の時期に市民音楽イベントをやるとかね、そういうのもいいかもしれないですね。

文化展は素晴らしいですよ。絵手紙とか写真とか展示してあるのですが、すごくいいイベントです。

市民 毎年観に行ってます。

市長 市民ホールはそのような活動に使えますので、音楽祭みたいなものやりましょうかね。

市民 市民ホールはもっとハードルが高いかと思っていたんですが。

市長 市民ホールのハードルは全然高くないですよ。海業公社という管理会社が単独でいろいろなイベントなどをやっていますが、パートナーを捜していますよ。名称などは市民音楽祭の方がいいのかな、今は合唱祭など行っていますよね。コーラスの皆さんとかね。音楽の合唱祭とか詩吟とかもあって。ポピュラーな市民コンサートってないかもしれないから、ちょうどいいかも。

これを皮切りに考えようよ。そこにプロも呼んでということですよ。

市民 そしたら文化レベルも上がると思います。三浦市出身のバンドなんかも捜せばいくらでもありますよね。

市長 あとはナツメグカフェとか、音楽に関心の深い方って結構いらっしゃるじゃないですか。そういう方々に協力いただくようにお声かけいただくのもいいかもしれないですよ。

市民 ナツメグさんはウクレレのイベントとかもやってますし。

市長 市民音楽祭はいいかもしれないな、文化活動を広めていくうえで。

市民 あとね、アート系の作品を残しておける場所がない。たとえば壁面アートを残せるとか、ちょっとそういうのは市民交流センターは合わなそうだけど。

市民 50周年の時に、市役所の前にモニュメントを作りました。あれを心無い方の行為によってだいぶ壊されたんですね。南下浦町と初声と三崎地区という三地区を向いたもので、市民まつりの中で、三浦市を訪れてくれた人、その時に尋ねてきてくれた人が三浦市のなかで思うものっていうのを作ってもらった小さい陶器の焼物ですよ。

遠目で見ると何ともないんですけど、もうないんですよあれ。魚のしっぽがないのは当然ですし、完全になくなっているものももちろんあります。そのメンテナンスではないですけど、造り足してあげてもいいんじゃないかな。お近くで観ていただくと、惨憺たる状況で。

つまり、こういうことも続けていかないと意味がないんじゃないかって思うんです。

あとは、僕は陶芸ですけど、リズムカルに何かを作っていくことができないかっていうのもあるし、ジャズの演奏をしながらなんてことも昔はしたこともあるんですけど、別にろくろを引くだけじゃなくて、粘土の塊で何かするとかね。そういうのって爆発させるほどのエネルギーをどこにぶつけるか。何を感じてどこにぶつけるかっていうことが創作活動なんです。

うちに通っている障害者の方がいるんですけど、ものすごいパワフルなんです。この子たちのこの部分を育ててやったら凄いいんじゃないかって思っているんですけど。やっぱり継続的に何かをやることってすごい難しいですね。うちには幸い毎月通ってくれている子が何人かいるんですけど、今まで親御さんもうしようもなく困っちゃったという子が、土を触り自分が作ったものが焼きあがって、家族の人たちに使ってもらっているっていう、その喜びって彼らにとってはとても大きくて、「こんなの作ったんだよ」「ここはこう使うんだよ」「これはシューマイの為のお皿なんだよ」って家族に話すんです。

こういうのって高齢者福祉なんかにももちろんつながるんだけど、100 円ショップが増えて、実際には陶器が使われなくなってきた時代の中で、柔らかい焼き物、ちょっとぶつけたら欠ける陶器っていうのを、僕は広めようとはしているんです。いろんな発信の仕方があるけど、音楽は一瞬で無くなるもの。僕らもある程度の期間が過ぎたらなくなっていくものっていうことで、行政のあり方とかも地球規模で言ったら実はほんとに小さなものかもしれないけど、その中で一生懸命生きてるっていう「人」を出せるパワーみたいなものが、もうちょっと出せるといいんじゃないかな。あっちのイベントはあの人やっているから、こっちのイベントはこの人がやっているからいいやっていうのが、三浦はものすごく色濃いです。だから、本当の意味で一緒にできるものができれば本当にいいんですよ。

市長

この市民交流センターの使い方って、基本的に自由にできると思います。作品展もできると思うので、ぜひ有効に活用していただきたいと思います。その前段としてこの文化祭だと思いますので、いろいろお知恵をいただいて、今の時代に合った文化活動を広めるためにも、市民音楽祭を開催するなど、これから検討できると思いますし、いろんな作品展や文化展のようなものを日常から開催できるような環境が市民交流センターによってできるようになると思います。市としても作品展のスケジュールですとか、皆さんの活動の情報をキチンとお伝えできるような環境を作っていければいいですね。

市民

横浜の市民ギャラリーなどは結構開放的になっていたり、鎌倉の芸術館とかもあるんだけど、実は発表できる場ってどんどん減っているんですよ。だから三浦っていう地の利は、確かに京浜急行で来なくてはいけないっていうのも、1本で便利なのか不便なのか、地域によってありますが、駅の近くであれば時間はかかるけど1本で来れる便利さの中で、作品発表を三浦だけでなくできることも大事なのかなと思います。作家たちはオープンな場所を求めているんです。

市長

引橋に今度市民交流センターができます。南下浦市民センターも、公民館の機能は残して高さを増して、子育て賃貸住宅を併設しようっていう準備をさせていただいております。そこに民間と協力してやるような準備を進めています。

大きな話では、旧三崎中学校は3.1ヘクタールぐらいあるのですが、そこを活用したいと思っています。三崎の下町は今でもお客さんがいっぱい来ますので、経済的な効果を生むような施設の誘致を目指しています。今は景気がよくなくて中々うまくいっておりませんが、国交省からも協力いただいて調査も始めています。そしてそれが実現できたら、市役所も引橋のグラウンド跡地に持ってきて、公共施設も民間施設と一緒に作ろうと。その時に市役所の機能や総合図書館の機能を持ってこれたらというのが、今進めている大きな取り組みです。

ただ、三崎に行政機能がなくなるっていうのは大きな話なので、公民館の機能だとか、行政手続きの機能は検討することになるかと思います。なかなか実現のためには時間がかかるかと思います。三崎高校の跡地も時間はかかりましたけど、ベイシアさんが出るって決まってからは、手続きでちょっと時間はかかりましたけど、事業は進んでいますので、そういった意味では民間は動きが早いですから、市としても遅れないように、いいチャンスがあったらすぐに動いていきます。

市役所の移転ってやっぱり大きなテーマなので、市が勝手に決めるわけにもいかないので、市民アンケートなどもきちんとやって、コンセンサスの形式を経てやろうと思っています。反対多数で市役所の移転ができなくなったらまた考えないといけないですけどね。そんなようなことも想定しています。

そんな中で、新しくできる市民交流センターを皮切りに、いろんな取り組みを行っていただきたい。またご指導いただけたらというように思います。

市民

市の市有財産で、耐震だとかいろんな問題で使用不可になっているところが市内にあります。それをどうすれば活用できるか。行政の優先順位は建物より人に向いているべきだと思うし、余裕もないと思うのですが。今リノベーションが流行っていて、一昨年のリノベーションスクールでもいろんな活動があったのですが、実際にリノベーションを専門としている業者が多数台頭してきており、その活用も含めた市の規制の緩和があれば、企業も入ってきたりするのかなって思います。青少年会館とか旧三中とか。千葉で今小学校をリノベーションしてマーケットとして活用したことで注目

を集めた例もありますし。市で活用できていない部分を民間にうまくつなげれば、市の財政の方もプラスになるのかな。移住に直接つながるかはわかりませんが、人が集まりやすくなるのかな。ぜひその辺もお考えいただければ。

市長

市では直す施設と壊さなくてはいけない施設と分けて考えているのですが、この前通り矢の市営住宅の屋根が飛んだことがあり、今市営住宅も入居者が 40 人を切っているくらいなので、具体的に取り組むよう指示を出しています。僕は将来、市営住宅は廃止しようと思っているんですよ。今入居されている方々にはもちろん補償はしないといけませんが、そんなような検討もさせてもらっています。三浦市は人口に対して公営住宅の比率が高いですね。初声などに県営住宅もありますし、そこで十分カバーできるかなっていう思いもあって。ずっと何十年も市営住宅は入居者を募集していないし、市営住宅のあり方を見直そうって話を何年も前からしているのです。公営住宅を建て直すってことになる、とても強固な建物を建てないといけなくて、財源の問題もあります。

市民

東大の臨海研究所はどうなるのでしょうか。

市長

あの建物を残すことは無理ですね。今お願いしているのは外装を、今の建築の技術なら残せるので、横浜なんかで古い建物とか残してるじゃないですか。東大としてせっかくあの場所に建物を持っているんだから、リノベーションして活用できるような、建て替えをして由緒ある建物の外観を保存できるような仕組みを考えてくれって今頼んでいます。何とか実現できるんじゃないかなって思っているんですけどね。ただ壊して更地にしておくのではなくてね。

市民

この間三崎の商店街にいたら、鳥取から来たという方が、研究所が壊されると聞いて急いで飛んで来まして。そういう方もいらっしゃったので、すごい有名なんだと感じました。

市長

東大が壊すと結論をだしてしまったので。

市民

あそこをそのまま使うのは無理だと思ったので、いわゆる外観は残してほしい。海から観光したりとか、ランドマークになる。

市長

それはお願いしてます。研究所はノーベル賞をだしたいと言っていますので。

市民

市長がおっしゃったように、ベイシアに小網代の森インフォメーションができることになっていますので、市民の皆さんが小網代の森の貴重な場所にもっと来てほしいし使ってほしいと思っています。

市長 地元の子どもは行ったことがないかもしれませんね。

市民 来てないです。三浦の子どもたちにたくさん来てほしい。誇りに思えるようになってほしいと思います。

市長 わかりました。
本日はいろいろな有意義なご意見、ありがとうございました。

※ 公表については了承を得ております。